



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社
(2016年12月21日)

TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

パナマ運河拡張後の国際貿易の現状 ～現地視察を通じて～

パナマ運河拡張後の新水路概要と国際物流への影響は本年6月27日号でご案内の通りですが、拡張工事完了から約半年が経過し、12月14日には新パナマックス型の通峡が500船目を迎えるなど注目が高まっています。そのホットなパナマ運河の最新動向について弊社社員が現地を視察し、同地でインタビューを実施しましたので、本号ではその概要についてお届けします。

1. アジア/北米東海岸航路におけるパナマ運河の利用増加

海運アライアンスの「ザ・アライアンス(*1)」および「オーシャンアライアンス(*2)」は、2017年4月から開始する新サービス概要を相次いで発表しました。両アライアンスとも、アジア/北米東海岸航路において、スエズ運河よりもパナマ運河の利用を増やす予定としており、既に最大手アライアンスの「2Mアライアンス(*3)」もパナマ運河へのシフトを発表しています。海運業界全体がパナマ運河の拡張による大型船の通航をメリットと捉えており、物流ルートの変更を行っています。パナマ運河の利用増加により、北米メキシコ湾岸および東海岸の物量増加も見込まれます。

(*1) 日本郵船、商船三井、川崎汽船、Hapag Lloyd、陽明海運が2017年4月以降に所属予定の海運アライアンス。

(*2) CMA CGM、OOCL、COSCO、Evergreenが2017年4月以降に所属予定の海運アライアンス。

(*3) A.P.モラー・マースク、MSCが所属する海運アライアンス。



旧水路

新水路を通航する
コンテナ船



新水路は
タグボートで曳航

パナマ運河のミラ・フローレス閘門から見る、新水路を通航するコンテナ船とタグボート

(写真: 弊社社員の現地視察)

2. 米国の物流および経済の活性化

前述の通り、海運業界全体でパナマ運河の利用増加が見込まれることから、パナマ運河の拡張によって米国へ輸入されるコンテナの約10%が米国西海岸揚げから東海岸揚げへシフトする見通しとの調査結果もあります。既に、米国バージニア港では2016年10月の月間貨物取扱量が過去最高を記録、2015年の年間貨物取扱量が過去最高だったバージニア州隣接のメリーランド州・ボルチモア

